

かすかな声

太宰治

青空文庫

信じるより他は無いと思う。私は、馬鹿正直に信じる。ロマンチズムに拠^よつて、夢の力に拠^よつて、難関を突破しようと気構えている時、よせ、よせ、帯がほどけているじゃないか等と人の悪い忠告は、言うもので無い。信賴して、ついて行くのが一等正しい。運命を共にするのだ。一家庭に於いても、また友と友との間に於いても、同じ事が言えると思う。

信じる能力の無い国民は、敗北すると思う。だまって信じて、だまって生活をすすめて行くのが一等正しい。人の事をとやかく言うよりは、自分のていたらくに就^ついて考えてみるがよい。私は、

この機会に、なお深く自分を調べてみたいと思っている。絶好の機会だ。

信じて敗北する事に於いて、悔いはいない。むしろ永遠の勝利だ。それゆえ人に笑われても恥辱ちじよくとは思わぬ。けれども、ああ、信じて成功したいものだ。この歓喜！

だまされる人よりも、だます人のほうが、数十倍くるしいさ。地獄に落ちるのだからね。

不平を言うな。だまって信じて、ついて行け。オアシスありと、

人の言う。ロマンを信じ給え。「共栄」を支持せよ。信すべき道、他に無し。

甘さを軽蔑する事くらい容易な業は無い。そうして人は、案外、甘さの中に生きている。他人の甘さを嘲ちやうしょう笑しながら、自分の甘さを美德のように考えたがる。

「生活とは何ですか。」

「わびしさを堪える事です。」

自己弁解は、敗北の前兆である。いや、すでに敗北の姿である。

「敗北とは何ですか。」

「悪に媚び笑しょうする事です。」

「悪とは何ですか。」

「無意識の殴打です。意識的の殴打は、悪ではありません。」

議論とは、往々にして妥協したい情熱である。

「自信とは何ですか。」

「将来の燭光を見た時の心の姿です。」

「現在の？」

「それは使いものになりません。ばかです。」

「あなたには自信がありますか。」

「あります。」

「芸術とは何ですか。」

「すみれの花です。」

「つまらない。」

「つまらないものです。」

「芸術家とは何ですか。」

「豚の鼻です。」

「それは、ひどい。」

「鼻は、すみれの匂いを知っています。」

「きょうは、少し調子づいているようですね。」

「そうです。芸術は、その時の調子で出来ます。」

青空文庫情報

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集第十卷」筑摩書房

1977（昭和52）年2月25日初版第1刷発行

初出：「帝国大学新聞 第八百三十三号」

1940（昭和15）年11月25日発行

※初出時の表題は「独語いつ時」です。

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2005年3月17日作成

2016年7月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かすかな声

太宰治

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>